

果たして
どうなる?!



2004 年式

担当: 太田哲也

No.005

ALFA ROMEO 147



奥さん専用のクルマとして購入した147。ヤレた部分に手を加えつつ、これまでとは違ったアプローチでアルファ・ロメオを楽しみたいと思っている。

文: 編集部 撮影: 宮越孝政
協力: TEZZO TEL: 045-948-5535
HP: <http://www.tezzo.jp/>

太田哲也が147の魅力を引き出す

リフレッシュで 新車以上の輝きを取り戻せ!

新連載!

機関は良好で走りもいい
でも経年劣化は隠せず

太田さんが2台目となる147を購入したきっかけは、106ページのエッセイで述べた通り。奥さんのクルマ探しをいろいろ比較検討した結果、アルファ・ロメオ147へ辿り着いたのだ。

その個体がこの2004年式の147セレスピード。アルファのイメージカラーであるレッドではなく、シックなプラチナグレーをチョイスしたのは、そういった経緯もある。ボディカラーが違っただけで、随分と雰囲気が変わって見える。気になるのはクルマの程度だけれど、事前にちゃんとチェックしたことで、信頼のおける専門店から購入したこともあって状態は良好だ。

とはいってももの、新車登録から6年間も経過すれば、個々のパーツ類が経年劣化を起こすものもある。そんな中でも太田さんが気になっているのは、頻繁に見える箇所と手に触れる部分。例えばドアノブのアルミが白くくすんでいたり、樹脂系のパーツが白く脱色していたりする。見えにくい場所ならともかく、クルマに乗り込む際や運転席から見るとどうしても気になってしまうのだ。さらに、一番厄介なのはインテリアの樹脂系パーツ。どれも表面が溶け出し、ベタベタの状態になってしまう症状だ。同年代のフィアットやフェラーリなどにも多く見られるこの状態は、パワーウインドーや内側のドアノブなどにも及んでいて、毎回頭がベタベタして不快な思いになる。これらのパーツ類はケミカルを使って綺麗にできないかと、アレコレ取り寄せていろいろ試している最中だ。

こうしたオーナーならではの、ちょっとした気になる部分に少しずつ手を入れていこうと思う。そして、新車以上にパリッとしたクルマに仕上げたいと太田さんは考えているようだ。もちろん、他にもちょっとした技を入れたら楽しみたい。

10年以上にもなると経年劣化は仕方ない……



ペダルラバー

ペダルラバーも当然のことながら磨り減っている。パーツ自体はそれほど高くないし、踏み外しなどを防止するためにも交換したい。



スカッフプレート

アルミのスカッフプレートはキズによって半分開すんだ状態に。ここは磨いても無理そうだし、思い切って新たなパーツを作る手も。



シフトノブ&ステアリング

シフトノブのみならずステアリングは手の脂によってテカテカに光っている。ずっと手の触れる部分だけに、ここも手を加えたいと思う。



内装の樹脂パネル

手が触れる樹脂はご覧の通り表面がベタベタに溶け出している。どうしてこんな素材を使うか不明だけど、早急にどうにかしたい部分。



樹脂ドアノブ

147のデザインの特徴でもあるリアドアノブ。本来なら目立ちにくいデザインだけど、白く退色してしまうと逆に目立ってしまう。



アルミドアノブ

乗り込む度に気になるのがドアノブのくすみ。幸いにメッキではないので、磨き込めばきっと輝きが復活しそう。でも結構大変そう。



バンパーモール

バンパーのサイドモールも退色気味。ボディが綺麗でも、この部分が疲れていると全体が台無し。ケミカルでなんとか復元できそう。



外装樹脂パーツ

ワイパーの取り付け部分にある樹脂カバーは白く退色。半分黒くなっているのは、ケミカルがどの程度効くのか試しているところ。

次号からは早速リフレッシュ作業がスタートします!